高野山差別戒名 追善法会粛々と

5月7日、高野山大塔伽藍金堂で「差別戒名追善法会」が中西啓寶・管長を中心に全山あげておこなわれた。

追善法会には、部落解放同盟から組坂・中央執行委員長や県連の代表が出席。さらに行政や研究機関などから多数が参加した。

法会では、読教につづき宗門を代表して、差別撤廃に向け、今後も強力にとりくむ決意が述べられた。

また、参列者を代表して組坂委員長から、法会の開催とこれまでのとりくみへの謝辞を述べるとともに『部落地名総鑑』の元データのネットへの掲示など、今日もなお悪質な差別事件が後を絶たないとして法制定などの実現が不可欠だとあいさつがあった。最後に参列者全員が焼香をして今年の法会を終えた。

法会のようす

あいさつする
組坂中央執行委員長

ランチタイムデモで訴え

第23回憲法の破壊を許さないランチTIMEデモを5月11日、和歌山市役所から京橋プロムナードまで120人が参加してデモ行進した。

県連から、池田清郎・副執行委員、松井辰也・執行委員、事務局2人が参加した。藤井幹雄・弁護士のシュプレヒコールで企業のビルが並ぶ沿道をデモ行進した。

次回のデモ行進は、6月13日。和歌山市役所前で12時20分から出発式をし、京橋プロムナードをめざす。政党はまったく関係なく、戦争に反対する方は大歓迎。

戦争反対を訴えデモ行進

多くの参加者が
９条守れと訴えた

主張

法制定を求めるとりくみを強力にすすめよう！

5月23日、東京で人権の法制度を求める2016年度第1波中央集会が国会前の憲政記念館で開催された。これは部落解放・人権政策確立要求中央実行委員会が主催したもので、全国各地から部落解放同盟をはじめ宗教者、企業、労働組合、政党など約500人の参加のもと開催された。部落解放同盟を代表して、組坂繁之・中央本部委員長は昨年から今年にかけて全国的な法制定を求めるとりくみのなかで「部落差別の解消の推進に関する法律」が現在与党内で審議され、5月19日には自民・公明・民進の3党共同で衆議院に提出され、5月20日には衆議院の法務委員会で趣旨説明がされている状況になった。そして、部落差別を拡大・拡散をもくろむ「示現舎」による『全国部落調査』復刻版への糾弾闘争をなんとしても貫徹し、法制定に向け国会議員の要請行動をすすめていこうと訴えた。そして、実行委員会を代表して高野山真言宗官長の代理・佐々木基文・社会人権局長は、差別事件は今なお深刻な状況にあり、今回「示現舎」による差別事件は現行の法整備の不備を明らかにしている。今こそ実効性のある人権の法制度確立に向けてとりくんでいこうとあいさつした。

この中央集会のあと各省交渉が実施され、あわせて県選出の国会議員への要請行動がおこなわれた。ただ今国会で成立をめざしていたが、会期末（6月1日）の関係で、与党関係中央本部関係者で協議した結果、今国会では衆議院において継続審議とし、次期国会で最重要課題として取り扱っていくことが確認されている。今後も継続したとりくみが必要である。

また、6月22日に参議院通常選挙が告示される。私たち和歌山県連も先の機関会議で和歌山選挙区は鶴保ようすけ・参議院議員、比例区は大江やすひろ・元参議院議員を推せんし、これまでとりくみをすすめてきた。私たちの選挙闘争のスタンスは政党ではなく、部落問題にいかにとりくむか、そして、国会でどのように活動しているかが基本となる。次期国会で人権法制度確立に向け全力で選挙闘争をすすめていこう。

参議院議員選挙 県連推せん候補
和歌山選挙区　鶴保ようすけ
比例代表区　大江やすひろ

各支部で大会ひらく

●**鳴神支部**の定期大会が4月4日、鳴神児童館でひらかれた。役員はつぎのとおり。

支部長　辻川　哲史

●**平井支部**女性部定期大会が4月22日、平井児童館でひらかれた。役員はつぎのとおり。

女性部長　坂下　君代

●**御坊支部**の定期大会が4月27日、財部会館でひらかれた。役員はつぎのとおり。

支部長　細川　健次郎

●**名古曽支部**の定期大会が4月27日、名古曽会館でひらかれた。役員はつぎのとおり。

支部長　寺本　忠行

●**湯浅支部**の定期大会が4月28日、湯浅町総合センターでひらかれた。役員はつぎのとおり。

支部長　石本　一也

●**古和田支部**の定期大会が5月7日、古和田会館でひらかれた。役員はつぎのとおり。

支部長　山本　潤

●**橋本支部**の定期大会が5月12日、岸上文化センターでひらかれた。役員はつぎのとおり。

支部長　寺本　典司

●**新宮支部**の定期大会が5月16日、下田隣保館でひらかれた。役員はつぎのとおり。

支部長　中上　和年

実行委員会、幹事会ひらく

部解放・人権行政確立要求和歌山県実行委員会第4回幹事会を4月18日、県連でひらいた。

報告事項で、昨年12月4日にひらいた幹事会以降のとりくみ確認と「同対審」答申50年の市町村要請行動について報告された。市町村要請行動では、部落問題解決にむけた行政責任の明確化と必要な施策の実現、人権行政推進を要望した。また、市町村間で同和問題への温度差、答申を知らない若い世代の職員の増加など、課題が明らかになった。

協議事項では、阪上貴文・事務局次長（県職）から入口博文（県職）さんへ役員変更が確認された。「人権の法制度」については、自民党を中心に個別法での制定をめざすため、「部落問題に関する小委員会」が設置、議論が継続されていることが報告された。

あらたな『部落地名総鑑』の発行・販売について、鳥取ループ・示現舎より『全国部落調査　部落地名総鑑の原点』と題した書籍が発行・販売されるという情報がインターネットに掲載された事件で、横浜地裁に出版・販売の差し止めの仮処分申し立て・仮処分決定がだされた。示現舎は、仮処分後、関連した書類一式をヤフーオークションに出品するという暴挙にでたことなどが報告された。最後に、部落解放・人権政策確立要求第1次中央集会の参加者の確認と「戦争法の廃止を求める統一署名」「人種等を理由とする差別の撤廃のための施策の推進に関する法律案」の署名への協力を確認した。

岩出支部大会のようす

文化の窓

「日本の黒い夏～冤罪」

監督：熊井啓　出演：中井貴一、寺尾聰、細川直美、遠野凪子ほか　119分/2001年

1994年6月27日、長野県松本市北深志地区で発生した松本サリン事件の第1通報者である河野義行さんへの「警察の強引な任意同行」と「報道機関の語法による過熱取材」の実態を描いた作品。副題に「冤罪」とあるように、罪のない被害者をえん罪へと陥れ、迫害していく警察、マスコミ市民の姿を描いた一作。

◆お問い合わせは県連・教宣部まで
TEL 073－473－2301